# CODE 海外災害援助市民センター
# 2021 年度　事業報告

【1. 海外災害地への救援活動事業】

＊2017 年度より、継続プロジェクトと終了予定プロジェクトを明確に表記し、各プロジェクトの事業終了予定時期の項目を追加した。終了予定時期は、一応の目標であるが、その時点で継続の必要性があれば、理事会の協議を経て決定する

| 項目 | 番号 | プロジェクト名 | 開始時期 | 終了予定時期 |
|---|---|---|---|---|
| ●継続プロジェクト | 1 | アフガニスタン救援プロジェクト | 2003 年 | 2026 年度末 |
| | 2 | 中国・四川救援プロジェクト<br>(四川大地震、新型コロナウイルス感染症) | 2008 年<br>2020 年 | 2022 年度末<br>2022 年度末 |
| | 3 | インドネシア・ロンボク島地震、スラウェシ島地震津波、スンダ海峡火山津波 | 2018 年 | 2022 年度末 |
| ●終了予定プロジェクト | 4 | 東日本大震災救援プロジェクト | 2011 年 | 2021 年度末 |
| | 5 | 新型コロナウイルス救援プロジェクト(フィリピン) | 2020 年 | 2021 年度末 |
| ●新規プロジェクト | 6 | トンガ火山噴火災害 | 2022 年 | 2022 年度末 |
| | 7 | 2022.2.24 ウクライナ・ロシア支援 | 2022 年 | 2023 年度末 |

●継続プロジェクト

| 事業名 | 1-(1)アフガニスタン救援プロジェクト |
|---|---|
| 実施日時 | 2003 年～継続中 |
| 実施場所 | アフガニスタン・カブール州ミールバチャコット県 |
| 受益対象者の範囲及び予定人数 | ミールバチャコット地域の約 2500 世帯。これまで本事業の融資で直接裨益した農業従事者はのべ 550 世帯(2022 年 3 月時点)。 |
| 実施内容 | ●ぶどう畑再生支援事業<br>＊これまでの経緯<br>イスラム主義勢力タリバンによって焼き払われたミールバチャコット地域のぶどう畑を再生するプロジェクトが 2002 年からスタートした。300 万円を原資に 288 世帯が参加し、現地の農家たちで作るコーポラティブシューラー(ぶどう生産者協同組合)が運営してきた。この 20 年間で 550 世帯に増加した。<br>2007 年から 2009 年の 3 年間は JICA 草の根技術協力事業(地域提案型)に採択され、 |

| | |
|---|---|
| | 農家の方々を日本に招いて有機農業技術の研修を行った。日本で技術を学んだ農家たちは、その技術をアフガニスタンで活かしながら、日本の棚式のぶどう栽培を行い、収量が拡大した。<br>また 2013 年からは現地のレーズンを日本に輸入し、レーズンを通じてアフガニスタンの状況や文化など学ぶ機会（食と国際協力など）を提供してきた。これまでに 570 kgを輸入・販売した。<br>　2017 年、ぶどう再生プロジェクトをともに行ってきたルトフ・ラフマンさんが交通事故で逝去された。その後は、ご子息の Fardin さんが引き継ぎ、レーズン輸出をサポートしていただいてきた。<br><br>【2021 年度の動き】<br>　2021 年 8 月 15 日、イスラム主義勢力タリバンはアフガニスタン全土を制圧し、「アフガニスタン・イスラム首長国」の樹立を宣言した。20 年間駐留したアメリカ軍の撤退を機にタリバンが復権し、圧政を恐れ国外へと退避した人の数は 12 万人以上にのぼる。<br>日本にも約 500 名のアフガニスタン人が退避してきたが、大使館や JICA の職員のみに限られ、その家族の帯同は認められなかった。CODE のカウンターパートのルトフ・ラフマンさんの三男ファルディンさん（24 歳）の家族 12 名は国外退避を求め、CODE はファルディンさんへの様々な情報の提供、関西 NGO 協議会を通じて外務省や JICA への提言などを行ってきたが、彼らの退避は実現せず、いまだアフガニスタンに留まらざるを得ない状況にある。<br>　また、12 月にアフガニスタンから神戸市内へ退避してきた S さんをサポートする藤田伊与さん（アメリカ在住）を通じて、避難者受け入れの保証人（村上工務店　村上豪英社長）を紹介していただいた。その後、S さんにも「MOTTAINAI やさい便」を届け、時折アフガニスタンの状況をヒアリングしてきたが、S さんやその家族の安全に配慮してレポートなどで S さんのことはあまり触れていない。<br>　また、アフガニスタンの状況を CODE 未来基金の若者たちと共有する会を提供し、海外の問題を自分ごとにする機会になった。また、これを機に近畿ろうきん協賛のオンラインセミナー「若者と難民について考える」を未来基金の若者主体で開催することができた。<br>　CODE は、タリバン制圧後すぐに村井理事が「アフガニスタンに平和がもたらされることを願うメッセージ」を発出し、その後もレポート「アフガニスタンからの贈り物に感謝」を 44 本発信してきた。<br>　レーズンの輸入・販売に関しては、8 月のタリバンによる全土制圧後、社会の関心が高まったことから、CODE の在庫 10 kgのレーズンがすぐに完売した。<br>　ファルディンさんと協議してきたが、アメリカの経済制裁の影響で送金できないことや輸出業者が機能していないことから、レーズンを輸入することができなかった。<br><br>〇主な動き<br>5/24 未来基金勉強会「アフガニスタンの農業支援から学ぶ （講師：村井理事）」を開催<br>8/25 関西 NGO 協議会を通じて外務省へ要望書を提出（吉椿）<br>9/7　パスウェイズジャパンなど 4 団体が提出する要望書に賛同（吉椿） |

| | |
|---|---|
| | 9/9　第 2 回〇〇×国際協力 「農業×国際協力 アフガニスタンからの贈り物 9.11 をきっかけに始まった農業支援(講師：村井理事)」を開催<br>9/29 神戸芝居カーニバル実行員会主催<br>「アフガニスタンからの贈り物～9・11 から 20 年～」(村井理事)<br>10/26 伊丹市立中央公民館「アフガニスタン」講演の(2022/1/8)の打ち合わせ<br>(村井理事)<br>11/19 コープこうべ「アフガニスタン 9.11 から 20 年、アフガニスタンの今」<br>講演(村井理事)<br>12/8　アジア福祉教育財団セミナー「アフガニスタン難民はいま」を聴講<br>(村井理事)<br>12/10 アフガニスタンの若者のメッセージを共有する会を開催<br>(黒瀬さん、柳瀬さん、山内さん、山村さん、勝川さん、村井理事、吉椿)<br>1/8　伊丹市立中央公民館「ぶどうがつなげる支援の輪<br>～アフガニスタンの文化・暮らし～」で講演(村井理事)<br>2/8　豊中男女共同参画推薦センターステップへ「よみがえれカレーズ」レンタルの打ち合わせ(村井理事、吉椿)<br>2/9　藤田伊与さんとアフガニスタンについてのミーティング<br>(村井理事、吉椿、立部)<br>2/15　Hapic「複雑化する国際社会と人道支援の将来-アフガン人道危機」に出席(吉椿)<br>2/24　アフガニスタン退避者受け入れの村上工務店を訪問(村井理事、吉椿、立部)<br>2/28　アフガン退避者へ野菜届提供(村井理事、山本さん、吉椿) |

| | |
|---|---|
| 事業名 | 1-(2)中国・四川省地震救援プロジェクト・新型コロナウイルス感染症支援 |
| 実施日時 | 2008 年 5 月 13 日～継続中 |
| 実施場所 | 四川省地震の被災地域 |
| 受益対象者の範囲及び予定人数 | (四川大地震)四川省北川県光明村村民約 700 名および周辺住民<br>(新型コロナウイルス感染症)　湖北省武漢市民やボランティア |
| 実施内容 | ＊これまでの経緯<br>◎四川大地震<br>2008 年の四川大地震直後から CODE はスタッフの吉椿を現地に派遣し、北川県光明村において、アジア各国のボランティアたちとガレキの片づけ、仮設住宅建設補助、村祭り開催などの活動を行いながら、被災者に寄り添い、被災者との関係を築いてきた。<br>また、2011 年、光明村の拠点「老年活動センター」を伝統木造構法で建設し、村民の祭りなどのイベントの会場として活用してきた。また、村民自身がセンターを活用し、農家楽(農家レストラン)として運営してきたが、2014 年、村の書記・村長が退任したことや出稼ぎ |

| | |
|---|---|
| | が増えたことから、センターが活用される機会が減っていった。<br>2015 年からは震災後につながった四川の「NGO備災センター」の張国遠さんとの連携をより促進し、日中双方での学び合いの場を作ってきた。2015 年からは、日中NGOボランティア研修交流事業を開始し、全 5 回で日本の大学生・高校生 29 名が四川省の被災地で学びを深めた。また、この事業がきっかけで 2017 年「中日減災・防災国際交流事業」が実現し、中国の学校関係者やNGOスタッフ 23 名が神戸で防災・減災の学びを深める機会を提供することができた。その後も、2018 年、2019 年の四川省での「中日安全技術研修」（参加者 25 名）では、大阪大学の渥美教授らと吉椿が講師を務めた。<br>2019 年には、台湾集集地震 20 周年で、台湾、四川、KOBE の三者交流を実施し、台北の国立政治大学で開催された国際シンポジウム「複合災害の協力におけるガバナンス」に張国遠さん、渥美教授、CODE 吉椿が参加した。その後も、台中の埔里県の塹南大学で開催された国際シンポジウムにも張さんは登壇し、四川での取り組みを紹介や南投県桃米地区の復興の視察などを行った。<br>2020 年 1 月には「世界災害語り継ぎフォーラム」に CODE のカウンターパートのエコ・プラウォトさん（インドネシア）と張国遠さん（中国四川）をお招きし、CODE 寺子屋特別編を開催し、共に学び合う場を設けた。<br><br>◎新型コロナウイルス感染症<br>2020 年 2 月、新型コロナウイルス感染症が最初に爆発的に感染の広がった湖北省武漢市（人口 1300 万人）は 76 日間ロックダウンした。これまで連携してきた張国遠さん（NGO備災センター、新安世紀教育安全科技研究院）から CODE と渥美教授（大阪大学）に協力要請があったことからCODE の救援を開始した。張さんたちは、オンラインでボランティアを募り、取りこぼされる高齢者や障がい者、ホームレスを支える武漢の市民ボランティアを遠隔で支える仕組みを構築した。<br>3 月には張さん、渥美教授、CODE 吉椿が呼びかけ人となり、国際アライアンス IACCR を立ち上げ、台湾、中国、フィリピン、インドなど 14 の国と地域で民間の取り組みや経験などを共有する学び合いの場を 16 回開催し、CODE は IACCR 事務局の運営をサポートした。<br>例年実施してきた日中 NGO ボランティア研修交流事業（未来基金事業の一つ）は、コロナ禍のため海外渡航ができない事から、2020 年度から中止しており、2021 年度も実施することができなかった。<br><br>【2021 年度の主な動き】<br>2021 年度は、コロナ禍のため海外渡航ができない状況から、国際アライアンス IACCR としてオンラインを活用した研修などを実施するにとどまった。<br><br>＊IACCR 研修「Covid19 に立ち向かうコミュニティと社会的組織の国際交流と国際協力プロジェクト」<br>内容：第 1 回 3/27 コミュニティは、リスクの調査と感染症の予防と管理をどのように行うか（中国） |

| | |
|---|---|
| | 第2回 4/17 社会的な組織は、不利な人たち対してどのように効果的にサービスを提供するか（中国）<br>第3回 5/15 パンデミックにおける公衆衛生と心理的サービス（中国）<br>第4回 5/29 世界的パンデミックにおけるSDGsの課題と実践（CODE、中国）<br>第5回 6/26 パンデミック対応の国内外のモデルにおけるコミュニケーション①（インド、インドネシア）<br>第6回 7/10 パンデミック対応の国内外のモデルにおけるコミュニケーション②（メキシコ、大阪大学、中国）<br>主催：新安世紀教育安全科技研究院（IACCR事務局）<br>共催：大阪大学大学院渥美研究室（日本）、CODE（日本）,CEER（中国成都）、愛有戯社区発展センター（中国成都）、四川尚明公益研究センター（中国成都）、RCE Srinagar（インド）、Future Team Mexico（メキシコ）、デュタ・ワチャナキリスト教大学（インドネシア）<br>後援：成都民政局、成都市チャリティー協会<br><br>〇主な動き<br>4/17 国際アライアンス「IACCR」研修に参加（吉椿）<br>5/30 国際アライアンス「IACCR」研修で講演（吉椿）<br>5/31 国際アライアンス「IACCR」KOBEブランチミーティング<br>6/26 国際アライアンス研修に参加（吉椿）<br>7/9 兵庫県立大学大学院生の研究計画の相談会（澤田准教授、吉椿）<br>8/24 兵庫県立大学大学院生と華僑総会を訪問（澤田准教授、吉椿）<br>10/10 日本災害救援ボランティアネットワーク（NVNAD）コロナ座談会で講演（吉椿） |

| | |
|---|---|
| 事業名 | 1-(3) インドネシア救援プロジェクト<br>（ロンボク島地震・スラウェシ島地震・スンダ海峡火山津波） |
| 実施日時 | 2018年7月29日～ |
| 実施場所 | インドネシア共和国ロンボク島・スラウェシ島・スンダ海峡（ジャワ島西部） |
| 受益対象者の範囲及び予定人数 | ロンボク島ジェングラン村リアス地区の住民約670名<br>スラウェシ島シギ県JonoOge村やLangaleso村の子どもたち約100名<br>スンダ海峡（ジャワ島バンテン州）の被災地の住民とインドネシア建築家協会の専門家達 |
| 実施内容 | ●これまでの経緯<br>2018年度にインドネシアのロンボク島、スラウェシ島、スンダ海峡（ジャワ島）で立て続けに起きた地震や津波に対して、CODEは、カウンターパートであるエコ・プラウォトさん（デュタ・ワチャナキリスト教大学教授）を通じて、コミュニティセンター建設や木造建築のデザイン提供などの支援を行ってきた。だが、平成30年7月豪雨災害（西日本豪雨）と時期が重なった事もあり、寄付はそれほど集まらなかった。<br>2020年度からは、インドネシアは、新型コロナウイルス感染症の感染者が東南アジア最多となり、エコさんなど現地カウンターパートも行動の制限やコロナ対応に追われ、各プロ |

| | |
|---|---|
| | ジェクトの実施が難しくなった。各プロジェクトの経緯は以下の通り。<br>**◎「ロンボク島地震」**<br>発生日：2018年7月29日、8月5日、8月19日<br>震源地：西ヌサトゥンガラ州都マタラムの北東<br>規　模：M6.4（7/29）、M6.9（8/5）、M6.9（8/19）<br>被　害：死者555名　損壊家屋7万4000棟　（インドネシア国家防災庁発表）<br>●CODEの動きと救援プロジェクト<br>2006 年以来連携しているエコ・プラウォトさんや北茂紀さん（北建築構造事務所）などの建築の専門家にご協力いただき、2018 年 10 月にスタッフ上野らを派遣し、現地調査を行った。その結果、北部のジェングラン村リアス地区で住民組織「パトゥ・アジェ」と連携し、エコさんを通じて木造家屋のデザインを提供し、ワークショップを開催することとなった。2020年1月に来日したエコさんと上野が協議し、現地の木造住宅のワークショップについて議論したが、2020 年に入り、現地政府がコンクリートと鉄筋での再建方針を出し、木造での再建が難しい状況になった。また、現在も依然として新型コロナウイルス感染症の深刻な状況でエコさんたちも動けない状況である。<br>2021 年度も、新型コロナウイルス感染症の感染拡大と現地政府の再建方針の変更があり、木造の再建が難しくなり、現在、エコさんがコロナ禍の状況を鑑み、現地の「パトゥ・アジェ」と新たな方法を模索している。<br>【第1次派遣】<br>日　時：2018年10月29日～11月5日<br>派遣者：上野智彦、増島智子、北茂紀さん、エコ・プラウォトさん（ジョグジャカルタ）、<br>リンダ・オクタビアさん（ジョグジャカルタ）<br><br>**◎「スラウェシ島地震・津波」　＊すでに終了**<br>発生日：2018年9月28日<br>被災地：中スラウェシ州都パルの北約80km<br>規　模：M7.5<br>被　害：死者2090名　行方不明680名<br>損壊家屋6万7310棟　（インドネシア国家防災庁発表）<br>●CODEの動きと救援プロジェクト<br>先述のエコ・プラウォトさんにスラウェシ島の建築家のRachmatさんを紹介していただいた。彼らは、インドネシア建築家協会などと連携して資金を集め、伝統木造建築を活かした仮設住宅の建設を被災地の6か所で行っていた。CODEは、下記2度の現地派遣でRachmatさんらと協議を経て、Sigi県のLangaleso村という被災地で、子どもたちが集うコミュニティスペースを伝統木造建築「Tambi または Bantaya」で建設するプロジェクトを実施することとなった。2019年度には、Langeleso村でコミュニティスペースの建設が始まったが、2020年初めより新型コロナウイルス感染症の感染拡大で建設が中断したが、2021年11月にコミュニティスペースが完成し、本事業は終了した。<br>【第1次派遣】<br>日　時：2018年11月7日～12日 |

| | |
|---|---|
| | 派遣者:吉椿雅道<br>【第2次派遣】<br>日　時:2019年1月22日～26日<br>派遣者:吉椿雅道<br><br>**◎「スンダ海峡火山・津波」**<br>発生日:2018年12月22日<br>被災地:ジャワ島西部バンテン州、スマトラ島南部ランプン州<br>規　模:アナク・クラカタウ火山島の噴火による島の3分の1の大量の土砂が山体崩壊によって海面に流れおちたことで、津波が発生した。<br>被　害:死者426名　行方不明者29名　負傷者7202名<br>（インドネシア国家防災庁発表）<br>●CODEの動きと救援プロジェクト<br>スラウェシ島同様にエコ・プラウォトさんに紹介いただいたインドネシア建築家協会のMadcahyoさんらと共に2019年2月に被災地であるジャワ島西部バンテン州を調査した。日本も同様の災害に見舞われる可能性もあることから学び合いの提案をした。<br>2019年度は中川監事を通じて火山の専門家とインドネシアの専門家との学び合いの場を提供することで現地と調整してきたが、2021年、Madcahyoさんとコンタクトが取れない状況になり、。エコさんによると、現地政府とMadcahyoさんらの関係が悪化したことが原因ではないかとの事である。現在、エコさんを通じてMadcahyoさんにコンタクトを取ってもらっている。<br>【第1次派遣】<br>日　時:2019年1月26日～30日<br>派遣者:吉椿雅道 |

●終了したプロジェクト

| | |
|---|---|
| 事業名 | 1-(4)東日本大震災救援プロジェクト |
| 実施日時 | 2011年3月14日～ |
| 実施場所 | 東日本大震災の被災地 |
| 受益対象者の範囲及び予定人数 | 岩手県大槌、釜石などの被災者 |
| 実施内容 | CODEは、東日本大災害発生後、いち早く東日本支援を表明し、支援金を集めた。2011年度は、CODEに集まった支援金を、発足以来連携している被災地NGO協働センターを通して被災地支援に活用して貰うとともに、2011年4月1日から半年間同NGOにスタッフ二人を出向させた。また、2012年3月末には、金沢大学と連携し、中国四川省から被災者3名、カウンターパート1名を招聘し、東日本の被災地の訪問と交流を行い、帰国前日には神戸でCODE関係者などと交流会を行った。<br>2013年2月には10周年シンポジウムのために招聘したアフガニスタン、中国・四川省、 |

| | |
|---|---|
| | ハイチのゲスト 3 名が、東日本大震災の被災地を訪問し、被災者間の交流および情報交換を行った。<br>2013 年、フィリピン台風被災地の一部が高潮の被害で漁業が大きな被害を受けた事から、東日本大震災の被災漁村との交流を模索してきたが、未だ実現には至らなかった。<br>2019 年度も東日本の被災地の厳しい状況を被災地NGO協働センターと共有し、インドネシアの津波被災地などに東日本の現状を伝え、海外の被災地と東北をつなぐ役割を担ってきた。<br>2021 年度は震災から 10 周年の節目でもあり、CODE としては一応の区切りをつけ本事業を修了する。ただし、海外の被災地との交流など必要に応じて、今後も被災地 NGO 協働センターと連携する。 |

| | |
|---|---|
| 事業名 | 1-(5)新型コロナウイルス感染症救援プロジェクト（フィリピン） |
| 実施日時 | 2020 年 2 月 4 日～ |
| 実施場所 | フィリピン・バンタヤン島 |
| 受益対象者の範囲及び予定人数 | バンタヤン島の 83 世帯<br>・バランガイ POOC のアソシエーション POSSFA のメンバー48 世帯<br>・バランガイ OKOY のアソシエーション ORWA のメンバー35 世帯 |
| 実施内容 | ●これまでの経緯と動き<br>2013 年にフィリピン中部を襲った台風ハイエンの被災地であるセブ島北部のバンタヤン島を CODE は 2013 年～2015 年まで漁業支援を実施してきた。<br>2016 年～2019 年までは北陸学院大学の田中教授が JICA 草の根技術協力事業を活用し、CODE と共にバンタヤン島で女性たちの生活向上のための島の植物素材を活用した石鹸作りプロジェクトや小学生を対象にした防災カード（マップ）作りを行い、現地の小学校の教員やバランガイ（最小行政単位）やサンタフェ市が防災活動に活用している。<br><br>◎フィリピン・バンタヤン島、コミュニティ・キッチン＆コミュニティ・ガーデニング支援<br>2020 年、新型コロナウイルス感染症によって、リゾート地であるバンタヤン島は、観光客が激減し、島民は大きな影響を受けた。<br>2020 年 9 月、フィリピン台風（2013 年）支援で協働したセブの NGO,FIDEC の Jojo さんから、これまで支援をしてきたセブのバンタヤン島の住民たちが、コロナの影響で観光客の激減によって収入が途絶え、生活困窮に陥っているとの情報があった。相互扶助組織アソシエーションの女性たちがコミュニティ内で困窮している家庭の子どもたちなどに食事の提供をする「コミュニティ・キッチン」、そして自ら野菜を育てる「コミュニティ・ガーデニング」の支援プロジェクトを実施した。ポオック地区で 48 世帯、オコイ地区で 35 世帯が参加し、プロジェクトを通じてメンバー間で食生活を支え合った。<br>CODE はそれを支援するために 10 月から 2 か月間募金キャンペーンを実施し、約 46 万円（2 団体、74 名）が集まった。<br>2021 年度は、庭野平和財団の助成金（59 万円）を活用し、上記の「コミュニティ・キッチン」と「コミュニティ・ガーデニング」支援を延長し、アソシエーションの女性たちの地域での |

| | |
|---|---|
| | 支え合いを遠隔でバックアップした。コロナ禍の拡大でガーデンキッチンによる会食ができなかった時は、食糧配布などを行った。新型コロナウイルス感染症の状況も緩み、現地アソシエーションの主体的な動きを確認したことから本事業を終了とする。<br>【コミュニティ・キッチン】<br>　2つのアソシエーションでそれぞれ3グループに分かれて共同調理と会食を実施した。メンバー内でボランティアを募り、献立決めや買い出し、調理を行い、子どもたちを含めたメンバーの家族で集まって食事をした。ただ、コロナ感染拡大で活動に制限が生じ、共同調理・共同での食事が難しくなってからは、米の提供に活動を切り替え、経済面、健康面の支援の継続を図った。<br>【コミュニティ・ガーデニング】<br>　アソシエーションのメンバーが種や有機肥料を購入し、それぞれの家庭で菜園を作って野菜を育てた。育てた野菜は、空心菜、オクラ、さやいんげん、ナス、ゴーヤ、チリなど。どの家庭も広い畑があるわけではないので、家の敷地の限られたスペースに植えたり、プランターにバケツや土嚢袋を活用するなど、工夫しながら栽培していった。 |

| | |
|---|---|
| 事業名 | 1-(6)トンガ火山噴火災害救援プロジェクト |
| 実施日時 | 2022年1月15日～ |
| 実施場所 | トンガ王国トンガタプ島ヌクアロファ |
| 受益対象者の範囲及び予定人数 | トンガタプ島の農業従事者約100名 |
| 実施内容 | ＊火山噴火災害の概要<br>・日時：2022年1月15日<br>・場所：海底火山フンガトンガ・フンガハアパイ（トンガタプ島の北約65㎞）<br>・被害：死者3名　被災者8万8000人（全人口10万5000人の約84%）<br>＊2400人が住む場所を奪われた。<br>＊津波による住宅倒壊や火山灰降灰による飲料水汚染、健康被害、農業被害など<br>・津波の状況：<br>最大15mの津波が発生（津波は日本・奄美大島で120㎝、チリで174㎝、米カリフォルニアで131㎝）<br><br>＊CODEの動き<br>　直後から情報収集を開始したが、現地の通信が遮断されていた事で報道も少なく詳細な把握が困難な状況が続いた。その後、徐々に状況が見え、1/25 にメール稟議で理事会承認後、救援を開始した。ゼロコロナ政策を実施していたトンガは、この災害後に急速に感染が拡大し、島全体でロックダウンが始まり、海外からの支援者も実質トンガに入国できない状況が続いた。<br>　NHKを通じてトンガ在住の農業経営者のMinoru Nisiさん（日系3世）をご紹介いただいた。彼は、契約農家と連携して農作物を海外に輸出しているが、ニュージーランドへ |

| | |
|---|---|
| | の輸出する予定で植えたばかりスイカなどの農作物が全滅しているとのことから農業支援ができないかを検討した。 |

| | |
|---|---|
| 事業名 | 1-(7) 2022/2/24 ウクライナ・ロシア支援 |
| 実施日時 | 2022年2月24日～継続中 |
| 実施場所 | 兵庫県内 |
| 受益対象者の範囲及び予定人数 | 兵庫県内に避難してきたウクライナ・ロシアの人たち数十人 |
| 実施内容 | 2022年2月24日、ロシア軍によるウクライナ侵攻が起きた。その後、国外に避難した人は500万人を超え、国内でも700万人が避難生活を送っている。(5月以降、状況が落ち着いた地域に戻る人も増加している。)<br>CODE は、直後からウクライナだけでなく、ロシアの状況を注視し、情報収集を行い、緊急声明も発出した。また、村井理事がウクライナやロシアの情勢をレポート「憎しみの連鎖ではなく、支え合いの連鎖を！」を発信してきた。その後少しずつ日本に避難してくる方々が増え、CODE は未来基金の若者たちと子ども食堂や在日ベトナム人留学生・技能実習生などに配布してきた「MOTTAINAI やさい便」の延長でウクライナやロシアの避難民に対しても食糧支援を行う事になった。2021年度末段階では、様々なルートで避難者の方々とのつながりを模索してきたが、直接野菜を届けるには至らなかった。<br><br>◎2021年度の主な動き<br>2/28　反戦メッセージ発出(村井理事)<br>3/10「憎しみの連鎖ではなく、支え合いの連鎖を！」を配信開始(村井理事)<br>3/5　ロシア在住者へのヒアリング(吉椿、立部) |
| 事業の目標と終了予定時期 | ウクライナの戦争が長期化し、日本に残る方々もしばらくは祖国に戻ることができないことを想定して、終了は2023年度末とする。 |

【2. 人材育成事業】

| | |
|---|---|
| 事業名 | 2-(1)事務局体制の充実化 |
| 実施日時 | 2011年4月～継続中 |
| 実施場所 | CODE 事務局 |
| 受益対象者の範囲及び予定人数 | 数名 |
| 実施内容 | 8年間勤務したスタッフ上野智彦2020年9月末で退職し、その後は、吉椿と立部知保里さん(兵庫県立大学大学院博士課程)の 2 名体制で事務局を運営してきた。立部さんには、CODE レター編集、震災 26 年企画の運営、会員管理など上野の業務を引き継いでもらった。2022年3月に大学院博士課程を修了し、アジア防災センターに勤務することとなっ |

| | |
|---|---|
| | た。<br><br>〇主な動き:<br>4/6　大阪大学生、黒瀬さんヒアリング（吉椿、立部）<br>4/12　事務局ミーティング（村井理事、細川、吉椿、立部）<br>4/12　事務局ミーティング（村井理事、細川、吉椿、立部）<br>4/22　人材育成・広報ワーキングミーティングを開催<br>（宮本副代表、岸本理事、堀之内理事、吉椿、立部）<br>6/30　神戸市にNPO法人資料提出（吉椿）<br>7/2　同志社大学勝川さんヒアリング（吉椿、立部）<br>7/28　兵庫県立大学大学院生駒田さん、氏家さんヒアリング（吉椿、立部）<br>8/26　桃山学院教育大学古谷さんヒアリング（吉椿、立部）<br>10/29 園田学園女子大学　高野さんヒアリング（吉椿、立部）<br>3/7　災害看護支援機構を訪問（高野さん、吉椿）<br>3/31　立部さん送別会（村井理事、増島、吉椿、頼政、山本、山内、黒瀬、柳瀬、山村） |

| 事業名 | 2-(2) NGOことはじめ |
|---|---|
| 実施日時 | 随時 |
| 実施場所 | CODE事務所 |
| 受益対象者の範囲及び予定人数 | 当NGOスタッフはじめ、学生や一般など |
| 実施内容 | 2021年度も例年通りに、榛木理事、村井理事の両理事を講師に「NGOことはじめ」を2回開催する予定であったが、開催には至らなかった。 |

| 事業名 | 2-(3) 月イチシリーズ「食と国際協力」→2020年度から「〇〇と国際協力」に変更 |
|---|---|
| 実施日時 | 毎月第3木曜日 |
| 実施場所 | CODE事務所 |
| 受益対象者の範囲及び予定人数 | 一般 |
| 実施内容 | 2014年3月より「食と国際協力」を月1回、第3木曜日に開催してきた。食を通して、その国について学び、語る場を作る。災害が起きる前からその国の事を知り、身近に感じてもらうという主旨で、2019年度までの7年間で計59回を開催し、のべ801名にご参加いただいた。<br>2020年度からは「〇〇と国際協力」という形でリニューアルする事となり、以下の通り年1回のペースで実施した。 |

| | |
|---|---|
| | 2021 年度はアフガニスタンの政変もあったこと,、9・11 から 20 年ということもあり、関心は高かった。<br><br>第 1 回「映画と国際協力～台湾人のアイデンティティとは？～」<br>日　時：2020 年 8 月 20 日 18：30～20：00<br>開　催：Zoom によるオンライン<br>語り手：宮本匠さん（CODE 副代表理事）<br>参加者：14 名<br><br>第 2 回「農業と国際協力～アフガニスタンからの贈り物<br>9.11 をきっかけに始まった農業支援～」で講演（村井理事）<br>日　時：2021 年 9 月 9 日 18：30 ～20：30<br>開　催：Zoom によるオンライン<br>語り手：村井雅清（CODE 理事）<br>参加者：23 名 |

| | |
|---|---|
| 事業名 | 2-(4) CODE 未来基金 |
| 実施日時 | 2014 年 12 月 10 日～ |
| 実施場所 | - |
| 受益対象者の範囲及び予定人数 | 災害 NGO で働く若者、または将来的に災害 NGO で働く事をめざす若者、若干名。 |
| 実施内容 | ●これまでの経緯<br>2015 年に CODE 終了したプロジェクト残額の半分（約 1000 万円）を活用、CODE 未来基金を立ち上げ、次世代の NGO を担う若者たちを応援してきた。これまでに海外のフィールドワークでは、フィリピン、ネパール、中国の被災地に計 12 名を派遣した。インターンシップでは、これまでに 2 名が半年間 CODE の業務に有給で従事した。2020 年からは、新型コロナウイルス感染症のパンデミックの影響で海外渡航ができなくなったが、この期間を活用し、国内で若者たちが農業を学ぶ「丹波農業フィールドワーク」を 2021 年度～2022 年 3 月末までに 4 回実施した。「ムラとマチの奥丹波」という有機農家のグループを賛助会員の山本健一さんに紹介していただき、学生たちはジャガイモの作付けや田植え、稲刈りなどを体験し、夜の懇談会で農業や食の安全、災害、国際協力などをテーマにディスカッションを持つ機会も得ることができた。<br><br>●「CODE 未来基金」の概要<br>・主旨：災害救援を主たる目的とする NGO を志す若者に財政的な助成をする事で、若者に学ぶ場、働く場、生き方の選択肢などを提示する。<br>・助成内容：以下の 3 部門<br>1. インターンシップ・・・将来、CODE など災害 NGO で働きたい若者が CODE で |

| | |
|---|---|
| | 有給インターンとして経験を積む機会を提供する。<br>2. フィールド研修・・・CODE の支援している被災地でのフィールド研修を若者自身が企画、実施する。<br>3. NGO セミナー・・・様々な分野の講師を招いて行うセミナーを若者自身が企画、実施する。<br>・基金の財源：CODE の過去のプロジェクト費の一部と寄付金を活用する。<br>CODE が次世代の災害 NGO を担う若者と育ち合っていく事を広く社会に呼びかけ、サポーターを募る。<br><br>・寄付について：＊一般寄付<br>個人一口 10,000 円、NGO/団体一口 30,000 円、企業一口 50,000 円<br>＊未来基金サポーター<br>年会費：1,000 円<br><br>・運営・選考：上野を未来基金専従スタッフとして、CODE 事務局が運営を担う。申請案件に関しては、CODE の 4 名の理事および外部選考委員 2 名によって審査を行う。<br>選考委員：芹田代表理事、榛木理事、山添理事、松田理事の 4 名と西海恵都子（神戸新聞編集局報道部長）、宮本匠（兵庫県立大学）の 2 名の外部委員から構成される。なお、山添理事は、2018 年度にコープこうべを退職されたことからこの委員を退任した。2019 年からは、委員である西海さん、宮本さんが CODE 理事に就任されたことにより委員を降りることになった。<br><br>●これまでの実績<br>＊フィールドワーク事業<br>・第 1 号事業：神戸大学生（アイセック神戸大学委員会）による「フィリピンでのフィールド研修」が、2016 年 3 月 30 日の選考委員会を経て採択された。事業は以下の通り実施された。<br>日　時：2016 年 8 月 10 日～18 日（9 日間）<br>場　所：フィリピン・セブ島、バンタヤン島<br>企画者：宮津隆太（神戸大学 2 回生）<br>参加者：神戸大学生 5 名<br>（宮津隆太、河村陽菜、佐久間崚平、西本楓、羽田和真）<br>同行者：上野智彦（CODE スタッフ）<br>テーマ：「Sign～学生に国際支援の新たな兆しを～」<br>内　容：被災漁村で生活を共にする中で貧困、教育、生計などの課題を考える。また、現地 NGO へのヒアリングによってフィリピンの漁村の抱える問題を知る。 |

| | |
|---|---|
| | ・第2号事業：兵庫県立大学の学生の企画によってCODEの支援するネパールグデル村でフィールド研修が行われた。2016年9月12日の選考委員会の協議によって採択された。詳細は以下の通り。<br>日　時：2017年2月22日～3月5日（12日間）<br>場　所：ネパール・ソルクンブ郡グデル村<br>企画者：立浪雅美（兵庫県立大学4回生）<br>参加者：兵庫県立大学、神戸学院大学、愛媛大学の3名<br>（立浪雅美、今中麻里愛、高橋大希）<br>同行者：吉椿雅道（CODE事務局長）<br>テーマ：「Discovery！～未来への可能性を広げよう～」<br>内　容：辺境のグデル村へ徒歩で向かい、現地の方の声に耳を傾け、暮らしを体験させてもらう。その中から見えてくる生活環境、医療、教育、文化などの課題を共に考える。<br><br>・第3号事業：神戸大学の学生の企画によってCODEの支援する中国四川省の光明村でフィールド研修が行われた。2017年10月3日の選考委員会の協議によって採択された。詳細は以下の通り。<br>日　時：2018年3月22日～3月30日（8日間）<br>場　所：中国四川省の被災地（光明村など）<br>企画者：西本楓（神戸大学2回生）<br>参加者：神戸大学4名<br>（西本楓、田口春香、石川睦巳、久保陽香）<br>同行者：吉椿雅道（CODE事務局長）<br>テーマ：「食による村おこし」<br>内　容：医食同源の故郷である中国で食や食文化を学び、それを活用して被災地での地域おこしを考える。<br><br>＊インターンシップ事業<br>2016年度のネパールフィールド研修に参加した高橋大希さん（愛媛大学2年生）が未来基金インターンシップ第1号として申請し、2017年8月18日の選考委員会の協議を経て採択された。<br>・第1号<br>名前：高橋大希さん<br>所属：愛媛大学教育学部2年生<br>期間：2017年10月3日～2018年4月1日<br>業務：SNSを活用した広報や若者のネットワーク作り、イベントの運営<br>未来基金ニュース「だいき日記」の発信、第4回日中NGOボランティア研修交流事業に参加など。 |

| | |
|---|---|
| | ・第2号<br>名前：立部知保里さん<br>所属：兵庫県立大学大学院減災・復興政策研究科博士課程<br>期間：2019年4月1日～9月30日（その後もアルバイトとして雇用）<br>業務：CODEレターの発行、会員管理、イベント運営、フィリピン・コロナ事業など<br><br>＊セミナー事業<br>近畿ろうきんの協賛を得て、例年、未来基金の若者たちと以下のようなセミナーを開催してきた。<br><br>1. 阪神・淡路大震災25年特別企画<br>「若者の生き方を語る～阪神・淡路大震災25年を前に～」<br>＊第1回 「お金に依存しない自立した生活をめざして」<br>スピーカー：久保陽香さん（「非電化工房」住み込み弟子）<br>日時：2019年10月27日<br>場所：神戸まちづくり会館<br>参加者：36名<br>＊第2回 「学生のやりたいを見つける」<br>スピーカー：羽田和真さん（NPO法人 The Peace Front）<br>日時：2019年11月22日<br>場所：神戸まちづくり会館<br>参加者：22名<br>＊第3回 「コミュニティナースが取り組む地域支援」<br>スピーカー：立浪雅美さん（「園田南」地域包括支援センター）<br>日時：2019年12月22日<br>場所：神戸まちづくり会館<br>参加者：49名<br>＊第4回 「昆虫食で世界の食システムに挑戦する」<br>スピーカー：西本楓さん（株式会社「BugMo」COO）<br>日時：2020年1月19日<br>場所：神戸まちづくり会館<br>参加者：43名<br>＊第5回 「若者の生き方について考える」<br>スピーカー：金益見さん（神戸学院大学講師）<br>日時：2020年2月9日<br>場所：神戸まちづくり会館<br>参加者：58名 |

| | |
|---|---|
| | **●2021年度の報告**<br>①　新型コロナウイルス感染症に対する動き<br>※コープともしびボランティア振興財団「第 5 回やさしさにありがとう ひょうごプロジェクト」の助成を受けて実施した。<br><br>（1）野菜の提供と交流<br>賛助会員の山本健一さんの協力によって、1～2週間に1回程度のペースで兵庫県丹波市及びたつの市で購入した有機野菜をCODE事務所に配達してもらい、その野菜をスタッフとボランティアの学生で、コロナで困窮している方々に届けた。提供先は、神戸市兵庫区のレンタルスペース「&A」や国際交流シェアハウス「やどかり」、同長田区のベトナム寺院「和楽寺」、日越交流センター、神戸市内にある日本語学校に通うミャンマーからの留学生などである。届けた野菜は、それぞれの団体を通じて利用者に提供されている。また、アフガニスタンから避難してきたSさんにも直接訪問して野菜を届けた。合計で&Aを20回、やどかりを10回、和楽寺を7回、ミャンマーの留学生を2回、アフガニスタン人のSさんを4回訪問した。訪問した際には、それぞれの団体の方に話を聞いたり交流を図ったりした。また、&A では放課後学習や夏休みの子ども向けプログラムにボランティアの学生が参加し、子どもたちとの交流も行った。<br><br>(2)食育イベントの開催<br>子ども支援をしている&A とつながりができたことや、丹波市で農業フィールドワーク（下記②）を行ったことをきっかけに、大学生が主体となって子どもたちに食に関心を持ってもらうための食育イベントを開催した。第 2 回を開催する予定だったが、コロナ感染再拡大により開催を見送った。<br>日にち：2021年12月26日（日）<br>場　所：レンタルスペース&A<br>企画者：黒瀬天孝（大阪大学1回生）、柳瀬彩花（追手門学院大学3回生）、<br>山村太一（神戸学院大学3回生）<br>同行者：森本莉永（豊岡市地域おこし協力隊）、立部<br>参加者：小学生4名<br>内　容：大学生が「ムラとマチの奥丹波」のメンバーにインタビューして制作した動画の視聴、生の有機野菜の試食、感想の共有（野菜がどのようにしてできるのか、どのような味がするのか）<br><br>(3)在留外国人を取り巻く問題に関する勉強会の開催<br>和楽寺の住職・釈徳智氏を講師として勉強会を開催し、日本にいるベトナム人がどのような問題や困難を抱えているのか大学生らが学んだ。<br>日にち：2022年3月18日（金）<br>方　法：オンライン（Zoom）<br>講　師：釈徳智氏（和楽寺住職）<br>参加者：黒瀬天孝（大阪大学1回生）、柳瀬彩花（追手門学院大学3回生）、山内優（関 |

| | |
|---|---|
| | 西大学3回生)、山村太一(神戸学院大学3回生)、吉椿、立部<br>内　容:徳智氏のお話と質疑、ディスカッション(日本にいるベトナム人のコロナ禍での困難、平時の技能実習制度の問題、技能実習生・留学生の生活、和楽寺のようなベトナム人コミュニティがどのようにサポートしているのか等)<br><br>②　丹波農業プロジェクト<br>2020年度、新型コロナウイルス感染症の影響で海外に渡航できないことやCODEの復興支援事業の中での農業の重要性を鑑み、この期間を活用して国内で農業を学ぶ中で食の安全や地域の課題、災害や国際協力を現場で考える機会を作った。コロナ禍の行動制限で鬱積していたのか若者たちが積極的に参加した。<br>2021 年度も「ムラとマチの奥丹波」と連携して丹波市でのフィールドワークを実施した。また、フィールドワークと並行して、CODEがこれまでに実施した農業支援のプロジェクトや海外の農業、食の問題等について学ぶ勉強会を実施した。<br><br>【第2回フィールドワーク】<br>日にち:2021年5月29日(土)～30日(日)<br>参加者:黒瀬天孝(大阪大学 1 回生)、塩井杏奈(大阪大学大学院博士前期課程 2 年生)、陶冶(兵庫県立大学大学院博士課程 5 年生)、森本莉永(豊岡市地域おこし協力隊)、柳瀬彩花(追手門学院大学3回生)、山内優(関西大学3回生)、山村太一(神戸学院大学3回生)<br>同行者:立部<br>内　容:田植え、ジャガイモ土寄せ、サツマイモ植え付け、意見交換(テーマ:ムラマチメンバーが丹波で農業をすることになった経緯や想い、丹波での農業と水の関係、安全な食と国の政策・経済活動との関係など)<br><br>【第3回フィールドワーク】<br>日にち:2021年10月2日(土)～3日(日)<br>参加者:氏家里菜(兵庫県立大学大学院博士前期課程1年生)、勝川真凪(同志社大学 2 回生)、黒瀬天孝(大阪大学 1 回生)、駒田大地(兵庫県立大学大学院博士前期課程 1 年生)、塩井杏奈(大阪大学大学院博士前期課程 2 年生)、陶冶(兵庫県立大学大学院博士課程 5 年生)、森本莉永(豊岡市地域おこし協力隊)、山村太一(神戸学院大学3回生)<br>同行者:吉椿<br>内　容:稲刈り、サツマイモ収穫、意見交換(テーマ:ムラマチメンバーの地域とのかかわり、食育イベントの相談など)<br><br>【第4回フィールドワーク】<br>日にち:2022年3月28日(土)～29日(日)<br>参加者:杉田かなえ(丹波篠山市地域おこし協力隊)、中田樹(豊岡市地域おこし協力隊)、森本莉永(豊岡市地域おこし協力隊)、山内優(関西大学3回生) |

| | |
|---|---|
| | 同行者:吉椿、立部<br>内　容:ジャガイモ植え付け、黒大豆味噌作り、野菜の種まき、意見交換(テーマ:農業と国際協力)<br><br>*勉強会<br>【第1回勉強会】<br>テーマ:アフガニスタンの農業支援から学ぶ<br>日にち:2021年5月24日(月)<br>講　師:村井理事<br>参加者:黒瀬天孝(大阪大学1回生)、陶冶(兵庫県立大学大学院博士課程5年生)、森本莉永(豊岡市地域おこし協力隊)、柳瀬彩花(追手門学院大学 3 回生)、山内優(関西大学3回生)、山村太一(神戸学院大学3回生)、吉椿、立部<br><br>【第2回勉強会】<br>テーマ:フィールドワークとは?海外の被災地支援の現場から<br>日にち:2021年8月20日(金)<br>講　師:吉椿<br>参加者:勝川真凪(同志社大学2回生)、黒瀬天孝(大阪大学1回生)、塩井杏奈(大阪大学大学院博士前期課程 2 年生)、陶冶(兵庫県立大学大学院博士課程 5 年生)、柳瀬彩花(追手門学院大学3回生)、山内優(関西大学3回生)、立部<br><br>【第3回勉強会】<br>テーマ:西半球最貧国ハイチが問いかけるもの<br>日にち:2021年9月2日(木)<br>講　師:吉椿<br>参加者:ムラマチの皆さん、氏家里菜(兵庫県立大学大学院博士前期課程1年生)、勝川真凪(同志社大学2回生)、黒瀬天孝(大阪大学1回生)、駒田大地(兵庫県立大学大学院博士前期課程1年生)、塩井杏奈(大阪大学大学院博士前期課程 2 年生)、陶冶(兵庫県立大学大学院博士課程5年生)、森本莉永(豊岡市地域おこし協力隊)、柳瀬彩花(追手門学院大学 3 回生)、山村太一(神戸学院大学3回生)、立部<br><br>＊2021年度の主な動き<br>3/13-14 丹波農業フィールドワークを実施(柳瀬さん、原田さん、山村さん、立部、吉椿)<br>3/26　CODE未来基金ミーティング<br>(柳瀬さん、原田さん、山村さん、塩井さん、村井理事、立部、吉椿)<br>4/24　未来基金ミーティング(柳瀬さん、山内さん、黒瀬さん、陶さん、吉椿、立部)<br>5/14　森本さん(豊岡地域おこし協力隊)にCODEや未来基金の説明(吉椿)<br>5/24　未来基金勉強会「アフガニスタンの農業支援から学ぶ」(村井理事、柳瀬さん、 |

| | |
|---|---|
| | 山内さん、山村さん、陶さん、黒瀬さん、森本さん、立部、吉椿）<br>5/29-30 第2回丹波農業フィールドワーク（柳瀬さん、山村さん、黒瀬さん、陶さん、山内さん、森本さん、塩井さん、立部）<br>6/7 丹波FW振り返りの会（柳瀬さん、山村さん、黒瀬さん、陶さん、山内さん、塩井さん、森本さん、立部）<br>6/16 生活困窮者支援のヒアリング（山村さん、山内さん、塩井さん、村井理事、立部）<br>6/21 未来基金コロナ支援 &A訪問・野菜配達（黒瀬さん、村井理事）<br>7/2 同志社大学勝川さんヒアリング（吉椿、立部）<br>未来基金コロナ支援 &A訪問・野菜配達（黒瀬さん、村井理事、立部）<br>7/5 未来基金コロナ支援 &A訪問・野菜配達（山内さん、村井理事）<br>7/8 コープともしびボランティア振興財団助成金本選考（立部）<br>7/13 未来基金コロナ支援 和楽寺訪問・野菜配達（塩井さん、村井理事、立部）<br>7/19 未来基金コロナ支援 &A訪問・野菜配達（陶さん、立部）<br>7/26 未来基金コロナ支援 和楽寺訪問・野菜配達（柳瀬さん、村井理事、立部）<br>7/28 兵庫県立大学大学院生駒田さん、氏家さんヒアリング（吉椿、立部）<br>8/2 未来基金コロナ支援 国際交流シェアハウスやどかり訪問・野菜配達（村井理事）<br>8/3 未来基金コロナ支援 &A放課後学習参加・野菜配達（塩井さん、村井理事）<br>8/6 未来基金丹波農業プロジェクトミーティング（立部）<br>8/10 未来基金コロナ支援 &A放課後学習参加（塩井さん）<br>8/11 未来基金コロナ支援 &A夏休み子どもプログラム参加（黒瀬さん）<br>8/12 未来基金コロナ支援 国際交流シェアハウスやどかり野菜配達（村井理事、立部）<br>8/13 未来基金コロナ支援 &A夏休み子どもプログラム参加（山内さん）<br>8/20 未来基金フィールドワーク勉強会（吉椿、立部）<br>8/24 未来基金コロナ支援 &A放課後学習参加（黒瀬さん）<br>8/26 桃山学院教育大学古谷さんヒアリング（吉椿、立部）<br>8/30 未来基金コロナ支援 国際交流シェアハウスやどかり野菜配達（村井理事）<br>8/31 未来基金コロナ支援 &A放課後学習参加（黒瀬さん）<br>9/2 未来基金ハイチ勉強会（ムラとマチの奥丹波のみなさん、吉椿、立部）<br>9/13 未来基金コロナ支援 国際交流シェアハウスやどかり野菜配達（村井理事）<br>10/2-3 CODE未来基金丹波農業フィールドワークに同行（吉椿）<br>10/10 日本災害救援ボランティアネットワーク（NVNAD）コロナ座談会で講演（吉椿）<br>難民寺子屋の学生企画ミーティング（村井理事、黒瀬、山村、山内、立部、吉椿）<br>11/15 神港橘高校タウンミーティング「被災地KOBEから世界へ」で講演（吉椿、山内さん）<br>12/10 アフガニスタンの若者のメッセージを共有する会を開催（黒瀬さん、柳瀬さん、山内さん、山村さん、勝川さん、村井理事、吉椿） |

| | |
|---|---|
| | 12/16　難民寺子屋の学生ミーティング（黒瀬さん、山村さん、山内さん、立部、吉椿）<br>12/19　CODE 寺子屋「若者と難民について考える」（ワンフェス for Youth 協働開催）<br>第 1 回を開催（徳山理事、黒瀬さん、山村さん、山内さん、吉椿、立部）<br>12/23　CODE 未来基金食育講座の打ち合わせ（山村さん、黒瀬さん、柳瀬さん、立部）<br>12/26　CODE 未来基金食育講座を開催（山村さん、黒瀬さん、山内さん、柳瀬さん、森本さん、立部）<br>12/30　CODE 未来基金食育講座の振り返り（山村さん、黒瀬さん、柳瀬さん、立部）<br>1/19　CODE 寺子屋「若者と難民について考える」第 2 回の打ち合わせ<br>（平野雄吾さん、黒瀬さん、山内さん、吉椿、立部）<br>1/24　CODE 寺子屋「若者と難民について考える」第 2 回を開催<br>（黒瀬さん、山村さん、山内さん、宮本副代表、村井理事、榛木理事、徳山理事、吉椿、立部）<br>2/14　未来基金ミーティングを開催<br>（黒瀬さん、山村さん、塩井さん、森本さん、立部、吉椿）<br>2/7　高野さんと災害看護支援機構を訪問（吉椿） |

【3. 災害関連情報の収集及び発信事業】

| | |
|---|---|
| 事業名 | 3-(1)災害情報サイト(CODE World Voice)の運営 |
| 実施日時 | 随時(2002 年からの継続事業) |
| 実施場所 | SOHO 形式や当センターなど |
| 受益対象者の範囲及び予定人数 | 不特定多数の災害情報を得ている人たちすべて |
| 実施内容 | 「被災地の市民の暮らしを知ることを通じて、防災や平和への意識向上を図る」ことが目的である。これまで CODE のプロジェクトをよりよく知ってもらうため、また、災害時の情報収集のために、随時 Reliefweb（UNOCHA が運営する、支援機関のレポート投稿サイト）やその他メディアからの翻訳を CODE ウェブサイトなどで発信してきた。<br>2021 年度も、新型コロナウイルス感染症対応の国際アライアンスなどで 3 名の英語翻訳ボランティアの方々に協力をいただいた。 |

【4. ネットワーク構築事業】

| | |
|---|---|
| 事業名 | 4-(1)《関係機関からの受託事業》 神戸学院大学（社会防災特別講義Ⅱ） |
| 実施日時 | 9 月から 1 月まで、毎週火曜日第3限 |
| 実施場所 | 神戸学院大学ポートアイランドキャンパス |
| 受益対象者の範囲及び予定人数 | 現代社会学部の学生 52 名 |

| | |
|---|---|
| 実施内容 | ① 「現代社会学部」の後期授業および講師派遣<br>村井理事が2007年から担っていた本講義を2020年度から吉椿が担っており、2021年度も以下の内容と講師陣とオムニバスで全15コマ実施した。<br>2021年度の受講生は約52名。なお、新型コロナウイルス感染症拡大の影響で後期の本講義は、対面とオンデマンド配信で実施した。<br><br>《日程と内容》<br>9/21(火) 第1回 ガイダンス(吉椿)<br>9/28(火) 第2回 CODE海外災害援助市民センターについて(吉椿)<br>10/5(火) 第3回 日本の災害復興支援活動(頼政良太さん)<br>10/15(火) 第4回 災害とジェンダー(斉藤容子さん)<br>10/19(火) 第5回 寄り添いとつながり(吉椿)<br>10/26(火) 第6回 異文化理解と援助(吉椿)<br>11/9(火) 第7回 海外の復興制度(斉藤容子さん)<br>11/16(火) 第8回 NGOと働き方(立部)<br>11/30(火) 第9回 国内外の復興支援活動の比較(立部)<br>12/7(火) 第10回 平時の地域防災(頼政良太さん)<br>12/14(火) 第11回 災害と貧困(吉椿)<br>12/21(火) 第12回 海外のコミュニティ防災(斉藤容子さん)<br>1/11(火) 第13回 援助の届きがたい被災地支援の方策(吉椿)<br>1/14(金) 第14回 国際協力と若者(吉椿)<br>1/18(火) 第15回 まとめ～これまでの講義を振り返って(吉椿)<br><br>その他、社会貢献学入門の講義(2回)の講義(履修者92名)も行った。<br>5/15(土) 第6回 NGOによる国際協力/CODEの行う社会貢献<br>7/17(土) 第15回 NGOによる国際協力/海外での復興支援活動 |

| | |
|---|---|
| 事業名 | 4-(2)《関係機関からの受託事業》 親和女子大学(国際ボランティア論) |
| 実施日時 | 4月から7月まで、毎週月曜日第2限 |
| 実施場所 | 親和女子大学キャンパス、その他オンライン授業 |
| 受益対象者の範囲及び予定人数 | 現代社会学部の学生約80名 |
| 実施内容 | 2020年度前期(月曜2限、全15回)より「国際ボランティア論」の講義((担当教員:梶山)を行うことになった。講師は、坂西卓郎さん(PHD 協会)(5)、斉藤容子さん(関西学院大学)(4)、吉椿(CODE)(5)の三者で実施した。<br><br>《内容》<br>4/12(月) 第1回 ガイダンス・授業の進め方(梶山) |

| | |
|---|---|
| | 4/19(月)　第2回　国際協力概論(坂西さん)<br>4/26(月)　第3回　ボランティアの歴史と意義(吉椿)<br>5/10(月)　第4回　開発教育と参加型学習(坂西さん)<br>5/17(月)　第5回　世界と国内の難民(坂西さん)<br>5/24(月)　第6回　国際協力と多文化共生(坂西さん)<br>5/31(月)　第7回　当事者から学ぶ(坂西さん)<br>6/7(月)　第8回　防災と国際協力(斉藤さん)<br>6/14(月)　第9回　緊急支援、復興支援(斉藤さん)<br>6/21(月)　第10回　ジェンダー視点から見る途上国災害(斉藤さん)<br>6/28(月)　第11回　ボランティアから専門家へ(斉藤さん)<br>7/5(月)　第12回　NGOとは？(吉椿)<br>7/12(月)　第13回　国際協力と若者(吉椿)<br>7/19(月)　第14回　SDGsと災害(吉椿)<br>7/26(月)　第15回　異文化理解と援助(吉椿) |

| | |
|---|---|
| 事業名 | 4-(4)《関係機関からの受託事業》 神戸学院大学(ボランティア論Ⅱ) |
| 実施日時 | 4月から7月まで、毎週火曜日第1限 |
| 実施場所 | 神戸学院大学ポーアイキャンパス、その他オンライン授業 |
| 受益対象者の範囲及び予定人数 | 現代社会学部の学生約28名 |
| 実施内容 | 2020年度よりCODEが受託した講義で、前期(火曜1限、全15回)の「ボランティア論Ⅱ」の講義を吉椿が行った。ゲストスピーカーとして、頼政さん、斉藤さん、立部も講義を担った。<br><br>《内容》<br>4/13(火)　第1回　ガイダンス(吉椿)<br>4/20(火)　第2回　ボランティア総論(吉椿)<br>4/27(火)　第3回　災害ボランティアについて(立部)<br>5/11(火)　第4回　災害ボランティアセンターについて(頼政さん)<br>5/18(火)　第5回　避難所運営とボランティア(頼政さん)<br>5/25(火)　第6回　避難所ワーク「HUG」(斉藤さん)<br>6/1(火)　第7回　復興支援とボランティア(立部)<br>6/8(火)　第8回　足湯ボランティアとは(吉椿)<br>6/15(火)　第9回　災害ボランティアのネットワーク(頼政さん)<br>6/22(火)　第10回　海外のボランティア①中国 (吉椿)<br>6/29(火)　第11回　海外のボランティア②フィリピン (立部)<br>7/6(火)　第12回　海外のボランティア③イタリア (斉藤さん)<br>7/13(火)　第13回　ボランティアと働き方(立部) |

| | |
|---|---|
| | 7/20（火） 第14回 災害とジェンダー（斉藤さん）<br>7/23（金） 第15回 NGOとボランティア（吉椿） |

| | |
|---|---|
| 事業名 | 4-(5)《関係機関からの受託事業》 関西NGO協議会 |
| 実施日時 | 随時 |
| 実施場所 | 未定 |
| 受益対象者の範囲及び予定人数 | 未定 |
| 実施内容 | 例年通り、以下の事業などに講師派遣をした。<br>①講師派遣<br>2022/1/12 龍谷大学国際NGO論「災害支援の現場から考える市民社会」で講義（吉椿） |

| | |
|---|---|
| 事業名 | 4-(6) 国内のネットワーク構築事業 |
| 実施日時 | 随時 |
| 実施場所 | 各地 |
| 受益対象者の範囲及び予定人数 | 未定 |
| | ① 関西NGO協議会の活動への参加<br>CODEは団体理事として、吉椿が2017年度から理事会に出席している。<br>なお、吉椿は、2019年度から常任理事、2020年度からはNGO-JICA協議会コーディネーターを担っている。また、KANSAI-SDGs市民アジェンダの座長としても、SDGsを通じて関西の多分野のNGOとの関係を深めてきた。<br><br>＊総会・理事会への出席<br>4/26 理事会に出席（吉椿）<br>5/15 2021年度定期総会に出席（吉椿）<br>5/28 理事会に出席（吉椿）<br>7/15 理事会に出席（吉椿）<br>9/19 常任理事会に出席（吉椿）<br>10/19 常任理事会に出席（吉椿）<br>2/4 常任理事MTGに出席（吉椿）<br>2/10 常任理事会に出席（吉椿）<br>2/17 理事会に出席（吉椿）<br>3/23 常任理事会に出席（吉椿） |

＊NGO-JICA 協議会

2020 年度より吉椿が KNC としてコーディネーターを担っている。

5/6　NGO-JICA 協議会 NGO コーディネーターMTG に出席（吉椿）
5/12　NGO-JICA 協議会コーディネーター会議に出席（吉椿）
5/17　NGO-JICA 協議会 NGO の集いに出席（吉椿）
6/1　NGO-JICA 協議会 NGO コーディネーターMTG に出席（吉椿）
6/3　NGO-JICA 協議会第 1 回全体会に出席（吉椿）
6/14　NGO-JICA 協議会 NGO コーディネーターMTG に出席（吉椿）
7/16　NGO-JICA 協議会コーディネーター会議に出席（吉椿）
9/18　NGO-JICA 協議会 NGO コーディネーターMTG に出席（吉椿）
9/21　NGO-JICA 協議会コーディネーター会議に出席（吉椿）
12/10　NGO-JICA 協議会コーディネーター会議に出席（吉椿）
12/16　NGO-JICA コーディネーター緊急会議に出席（吉椿）
12/22　NGO-JICA 協議会コーディネーター会議に出席（吉椿）
1/24　NGO-JICA 協議会第 2 回全大会に出席（吉椿）
3/19　NGO-JICA 協議会 NGO コーディネーターMTG に出席（吉椿）
3/31　NGO-JICA 協議会 NGO コーディネーターMTG に出席（吉椿）

＊関西 NGO-JICA 協議会

2020 年度より NGO-JICA 協議会の地方開催を行ってきた。2021 年度も 1 回開催した。（参加者約 40 名）

12/13　JICA 関西と関西 NGO-JICA 協議会の打ち合わせ（吉椿）
12/24　JICA 関西と関西 NGO-JICA 協議会の打ち合わせ（吉椿）
1/5　JICA 関西と関西 NGO-JICA 協議会の打ち合わせ（吉椿）
1/19　JICA 関西と関西 NGO-JICA 協議会の打ち合わせ（吉椿）
1/21　関西 NGO-JICA 協議会に出席（吉椿、立部）

＊その他

7/15　JANIC シンクタンク構想ヒアリングに出席（吉椿）
8/16　JVC ヒアリング（N-J 協議会）に出席（吉椿）
12/19 CODE 寺子屋「若者と難民について考える」（ワンフェス for Youth 共同開催）を開催（徳山理事、黒瀬さん、山村さん、山内さん、吉椿、立部）
1/5　龍谷大学の講義の打ち合わせ（吉椿）
1/15　真如苑助成金報告会に出席（立部）
3/3　Kansai-SDGs 市民アジェンダ運営委員会に出席（吉椿）
3/23　関西 NGO 協議会栗田さん、高橋さん来所（村井理事、吉椿）

② コープこうべとの連携

例年通り、コープこうべが実施している地区の勉強会や報告会への講師派遣を継続した。また、2022 年 1 月にトンガで発生した火山噴火災害に対しては、ハート基金から 50

万円拠出していただいた。

＊主な動き

7/8　コープともしびボランティア振興財団助成金本選考（立部）

9/14　コープこうべ 100 周年記念セミナーの打ち合わせ（村井理事）

9/27　コープこうべ 100 周年記念セミナー　第 4 回講義
「初心者ボランティアは役に立たないのか？」（村井理事）

11/19　コープこうべ「アフガニスタン 9.11 から 20 年、アフガニスタンの今」
で講演(村井理事)

12/23　関西学院大学　コープこうべの福祉講座「NGO とコープこうべ」
で講演(村井理事)

3/6　コープこうべ 100 周年記念事業打ち合わせ（NHK 京田さん、柳瀬さん、吉椿）

3/22　コープこうべ 100 周年記念事業打ち合わせ（NHK 京田さん、柳瀬さん、吉椿）

3/24　コープこうべ 100 周年記念事業「心の傷を癒すこと上映会＆斉藤幸平講演会」
でコーディネーター（吉椿）

③　近畿ろうきんとの連携

2018 年度より近畿ろうきんの社会貢献預金「笑顔プラス」（預金の金利の一部を社会貢献に使うしくみ）の寄付先団体として選出され、約 20 万円の寄付をいただいた。

2019 年度、CODE は近畿ろうきんに預金口座を開設した。2021 年度の笑顔プラスの寄付は 228,493 円となった。

また、2019 年からは、毎年、近畿ろうきんから協賛をいただき、以下のセミナーを開催してきた。

2019 年度「若者生き方を語る～阪神・淡路大震災から 25 年を前に～」

2020 年度「コロナとこれからの市民社会に向けて～SDGs・若者・災害/気候変動」

2021 年度は、アフガニスタンの政変が起きたこともあり、近畿ろうきん、関西 NGO 協議会と共催で CODE 寺子屋セミナー2021「若者と難民について考える」を実施した。詳細は以下の通り。

◎CODE 寺子屋セミナー2021「若者と難民について考える
～多文化共生社会の実現に向けて～」

＊第 1 回：高校生とワークショップで考える難民問題
日時：2021 年 12 月 19 日
講師：中尾秀一さん（アジア福祉教育財団難民事業本部関西支部長代行）
参加者：22 名

＊第 2 回：外国人の入管施設の現状と課題
日時：2022 年 1 月 24 日
講師：平野雄吾さん（共同通信エルサレム支局長）
参加者 37 名

| | |
|---|---|
| | ＊主な動き<br>6/15 近畿ろうきん笑顔プラス寄付金贈呈式・寄付先団体会議に出席（吉椿）<br>6/24 近畿ろうきん、ラジオカフェ「KYOTO HAPPY NPO！」に出演（吉椿）<br>9/7 近畿ろうきん職員研修「共生社会の実現を考える」で講演（吉椿）<br>11/10 寺子屋「若者と難民について考える」<br>近畿ろうきんとの打ち合わせ（吉椿、立部）<br>12/19 CODE 寺子屋「若者と難民について考える」（ワンフェス for Youth 協働開催）<br>第1回を開催（徳山理事、黒瀬さん、山村さん、山内さん、吉椿、立部）<br>1/24 CODE 寺子屋「若者と難民について考える」第2回を開催<br>（黒瀬さん、山村さん、山内さん、宮本副代表、村井理事、榛木理事、<br>徳山理事、吉椿、立部）<br><br>④ 若者の団体、教育機関とのネットワーク<br>2017年度から未来基金事業を中心に若者のネットワークとのつながりを作ってきた。「アイセック神戸大学委員会」や「ワカモノヂカラプロジェクト」、「神戸大学 PEPUP」、「まなびと」や「神戸大学救援隊」、「関西学院大学ニューマンサービスセンター」、「大学コンソーシアムひょうご神戸」などとの関係を深めてきた。「アイセック神戸大学委員会」とは、海外インターン送り出し事業局の面談委員を吉椿が担ってきたことや未来基金四川フィールド研修ではアイセックのメンバーが中国四川省で企画を実施した。<br>2021年度は、例年通り舞子高校、葺合高校、神港橘高校、神戸工科高校に加え、茨木高校、追手門学院大学やワンフェスユース、CODE 寺子屋「若者と難民について考える」などで高校生や大学生たちと共に学び合う機会もあった。<br><br>＊教育機関に関する主な動き：（神戸学院大学、親和女子大学以外）<br>5/21 神戸女子大学「国際ボランティア活動論」で講義（吉椿）<br>5/28 追手門学院大学「非営利組織論」で講義（柳瀬さん、吉椿）<br>6/9 兵庫県立大学大学院生フィールドワーク相談会（宮本副代表、吉椿、立部）<br>7/9 兵庫県立大学大学院生の研究計画の相談会（澤田准教授、吉椿）<br>7/17 兵庫県立大学「防災と国際協力」で講義（吉椿）<br>7/28 兵庫県立大学大学院生駒田さん、氏家さんヒアリング（吉椿、立部）<br>8/24 兵庫県立大学大学院生と華僑総会を訪問（澤田准教授、吉椿）<br>10/22 龍谷大学石原ゼミで講義（吉椿）<br>11/1 舞子高校環境防災科で講義（吉椿）<br>11/5 茨木高校 PTA の集いで講演（吉椿）<br>11/15 神港橘高校タウンミーティングで講義（山内さん、吉椿）<br>11/16 神戸工科高校で講義（立部）<br>11/17 神戸工科高校で講義（立部）<br>11/18 神戸工科高校で講義（立部）<br>12/20 関西国際大学「国際防災協力」で講義（吉椿）<br>12/23 関西学院大学 コープこうべの福祉講座「NGO とコープこうべ」 |

| | |
|---|---|
| | で講演村井理事）<br>1/9　佐賀 Okabase（西九州大学）と関西学院大学生に講義（吉椿、立部）<br>1/12　龍谷大学「国際 NGO 論」で講義（吉椿）<br>1/17　大阪大谷大学「国際社会学 B 国際協力論 B」で講義（吉椿）<br>2/4　葺合高校市民専門講師で講義（立部）<br>2/8　葺合高校国際科「グローバルスタディーズⅡC」で講義（吉椿）<br>2/18　葺合高校市民専門講師で講義（吉椿）<br><br>⑤ その他の団体との連携<br>4/23　JaNISS「市民社会組織のための危機管理・安全管理研修」<br>成果発表会に参加（吉椿）<br>6/17　全国ボランタリズム推進団体会議セッションの打ち合わせ（吉椿）<br>7/4　全国ボランタリズム推進団体会議（民ボラ）のセッションで登壇（吉椿）<br>8/21　Tokyo Art Research Lab「災間の社会を生きる術（すべ/アート）を探る<br>第 2 回「どういう態度で、現場に立つのか？」）」に登壇（宮本副代表、吉椿）<br>10/11　Hyomic(兵庫国際協力同志の会)に参加（芹田名誉理事、山口理事、<br>立部）<br>11/11　愛媛グローバルネットワーク、JICA 研修の打ち合わせ（吉椿）<br>11/17　たつの市民大学赤とんぼ学園教養講座で講演（吉椿）<br>1/22　愛媛グローバルネットワーク、JICA の NGO 提案型プログラム<br>「多文化共生型の減災社会づくり実践研修」で講演（吉椿）<br>2/14　Hapic「誰一人取り残さない気候正義」に出席（吉椿）<br>2/15　Hapic「国際人道支援の将来−現地化の視点から考える」に出席（吉椿）<br>Hapic「複雑化する国際社会と人道支援の将来−アフガン人道危機」<br>に出席（吉椿）<br>3/7　災害看護支援機構を訪問（高野さん、吉椿） |

| | |
|---|---|
| 事業名 | 4-(6) 海外のネットワーク構築事業 |
| 実施日時 | 随時 |
| 実施場所 | 各地 |
| 受益対象者の範囲及び予定人数 | 未定 |
| 実施内容 | ① 2013 年 11 月に発生したフィリピン台風災害を機にセブ島で活動する NGO ネットワーク「ABAG! Central Visayas」との関係を築き、その後もフィリピンでの災害の際はコンタクトを取っている。2020 年からはコロナ禍での生活困窮者を支援する女性たちの動きをサポートし、2021 年度は庭野平和財団の助成金を活用してコロナ禍の女性の活動を支援した。 |

| | |
|---|---|
| | ② 2008年の四川大地震以降、つながっている四川のNGO「NGO備災センター（上厚公益服務センター）」、「四川尚明公益発展研究センター」、「壱基金」などとの連携を、2015年から実施している日中NGO・ボランティア研修交流事業をきっかけに深めてきた。2020年度は、コロナ禍において、国際アライアンス「IACCR」を先述のNGOと立ち上げ、世界14の国と地域のメンバーと情報を共有してきた。<br><br>③ 2015年4月に発生したネパール地震の救援活動を通じてGudel Sherpa Communityや同組織のシニアアドバイザーであるラクパ・シェルパさんと出会った。2016年度からは、耐震住宅再建プロジェクトを行ったグデル村のシャーレ地区の「シェルパ村落開発改善委員会」や「夢広の会パタンジェ」との関係を構築してきた。<br><br>④ 2006年のインドネシア・ジャワ中部地震以降、連携しているエコ・プラウォトさん（デュタ・ワチャナキリスト教大学教授）や彼の建築家のネットワーク（インドネシア建築協会など）を通じて、2010年の青海省地震や2018年のロンボク島地震、スラウェシ島地震津波、スンダ海峡火山津波の支援も展開してきた。エコさんも新型コロナ感染症対応の国際アライアンス「IACCR」のメンバーになっている。 |

【5.「市民による災害救援」に関する調査・研究事業】

| | |
|---|---|
| 事業名 | 5-(1) CODE寺子屋学習会 |
| 実施日時 | 随時 |
| 実施場所 | CODE事務所 |
| 受益対象者の範囲及び予定人数 | 役員、事務局員、CODE会員、関係者、一般 |
| 実施内容 | CODE寺子屋は、これまで主にCODEの理事を講師として開催してきたが、2020年度からは、外部のNGOの方などのを講師として開催してきた。<br>2021年度は、アフガニスタンの政変が起きたこともあり、近畿ろうきん、関西NGO協議会と共催でCODE寺子屋セミナー2021「若者と難民について考える」を実施した。<br>詳細は以下の通り。<br>◎CODE寺子屋セミナー2021「若者と難民について考える<br>～多文化共生社会の実現に向けて～」<br>＊第1回：高校生とワークショップで考える難民問題<br>日時：2021年12月19日<br>講師：中尾秀一さん（アジア福祉教育財団難民事業本部関西支部長代行）<br>参加者：22名<br>＊第2回：外国人の入管施設の現状と課題<br>日時：2022年1月24日<br>講師：平野雄吾さん（共同通信エルサレム支局長）<br>参加者37名 |

【6.「市民による災害救援」に関する啓発及び広報事業】

| 事業名 | 6-(1) 賛助会員の拡大 |
|---|---|
| 実施日時 | 随時 |
| 実施場所 | CODE 事務所、その他 |
| 受益対象者の範囲及び予定人数 | 不特定多数 |
| 実施内容 | 2021 年度(2022 年 3 月 31 日時点)の会員の状況:<br>正会員　:28(団体 2、 個人 26)<br>賛助会員:120(団体 0、個人 120)　計:148 名・団体<br>＊この数年の会員数の推移:<br>・2018 年度　109 名・団体<br>・2019 年度　144 名・団体<br>・2020 年度　128 名・団体<br><br>2019 年度は、賛助会員の山本健一さんの声掛けで、賛助会員が増加しているが、コロン禍の影響もあり、会費の未納入で 2019 年度はやや減少しているが、未来基金のフィールドワークでお世話になっている丹波の「ムラとマチの奥丹波」の方々も新規で賛助会員になってくれたことなどで微増の状態にある。<br><br>＊リーフレットのカラー刷新<br>2019 年度に上野が JICA の研修で学んだノウハウを生かして、新しいリーフレット案をを作成したが、現在、岸本理事にご協力いただき新たなデザインを検討していただいている。<br><br>＊ソーシャルアクションリング(バナー広告)<br>2015 年度よりソーシャルアクションリングの HP で CODE を紹介してもらい、バナー広告を HP に貼る事で、今年度も年間 15000 円の広告費を得た。<br><br>＊Gochiso(ポイント寄付)<br>Gochiso というサイトで、登録しているレストランの食事代のポイント還元を寄付に充てる仕組みを 2017 年度から取り入れてきたが、レストランは比較的高級な店が多く、CODE とつながる関係との接点が少ないように思われる。 |

| 事業名 | 6-(2) 救援プロジェクト報告会及び講師派遣 |
|---|---|
| 実施日時 | 随時 |
| 実施場所 | 全国各地 |
| 受益対象者の | 不特定多数 |

| 範囲及び予定人数 | |
|---|---|
| 実施内容 | ① 当団体主催の報告会、講義は以下の通り。<br>◎震災26年企画「すべての人に宿るボランティアの心根」<br>講　師：芹田健太郎（CODE名誉理事）<br>コーディネーター：宮本匠（CODE副代表理事）<br>日　時：2021年7月24日13：30～15：30<br>場　所：CODE事務所、オンライン参加<br>参加者：34名<br><br>◎室崎代表理事喜寿記念講演会「災害と共に～いま、半生を語る」<br>講師：室崎益輝（CODE代表理事）<br>日　時：2021年8月22日（日）17:00-19:00<br>場　所：兵庫県立大学神戸防災キャンパス（参加者はオンライン）<br>申込み：187名（うち、理事・事務局11名）<br>参加者：120名以上（最後の写真撮影時）<br>お祝い寄付額：合計357,780円（54名より）<br><br>◎CODE寺子屋セミナー2021「若者と難民について考える<br>～多文化共生社会の実現に向けて～」<br>＊第1回：高校生とワークショップで考える難民問題<br>日時：2021年12月19日<br>講師：中尾秀一さん（アジア福祉教育財団難民事業本部関西支部長代行）<br>参加者：22名<br>＊第2回：外国人の入管施設の現状と課題<br>日時：2022年1月24日<br>講師：平野雄吾さん（共同通信エルサレム支局長）<br>参加者37名<br><br>② 他団体からの講師依頼による派遣は以下の通り。<br>5/21 神戸女子大学「国際ボランティア活動論」で講義（吉椿）<br>5/28 追手門学院大学「非営利組織論」で講義（柳瀬さん、吉椿）<br>7/4 全国ボランタリズム推進団体会議（民ボラ）のセッションで登壇（吉椿）<br>6/24 近畿ろうきん、ラジオカフェ「KYOTO HAPPY NPO！」に出演（吉椿）<br>7/17 兵庫県立大学「防災と国際協力」で講義（吉椿）<br>8/21 Tokyo Art Research Lab「災間の社会を生きる術（すべ/アート）を探る<br>第2回「どういう態度で、現場に立つのか？」）」に登壇（宮本副代表、吉椿）<br>9/7 近畿ろうきん職員研修「共生社会の実現を考える」で講演（吉椿）<br>9/27 コープこうべ100周年記念セミナー 第4回講義<br>「初心者ボランティアは役に立たないのか？」（村井理事） |

| | |
|---|---|
| | 9/29 神戸芝居カーニバル実行員会主催<br>「アフガニスタンからの贈り物～9・11 から 20 年～」（村井理事）<br>10/10 日本災害救援ボランティアネットワーク（NVNAD）コロナ座談会で講演（吉椿）<br>11/1 舞子高校環境防災科「災害と人間」で講演（吉椿）<br>11/5 茨木高校 PTA の集い「KOBE から世界へ」で講演（吉椿）<br>11/13 災害ボランティアについて知ろう講座「足湯ボランティアとは」で講演（吉椿）<br>11/15 神港橘高校タウンミーティング「被災地 KOBE から世界へ」で講演<br>（吉椿、山内さん）<br>11/17 たつの市民大学赤とんぼ学園教養講座「森と水と人の関わり」で講演（吉椿）<br>神戸工科高校で講義（立部）<br>11/18 神戸工科高校で講義（立部）<br>11/19 コープこうべ「アフガニスタン 9.11 から 20 年、アフガニスタンの今」で講演<br>（村井理事）<br>12/20 関西国際大学「国際防災協力」で講義（吉椿）<br>12/23 関西学院大学 コープこうべの福祉講座「NGO とコープこうべ」で講演<br>（村井理事）<br>1/8 伊丹市立中央公民館「ぶどうがつなげる支援の輪<br>～アフガニスタンの文化・暮らし～」で講演（村井理事）<br>1/9 佐賀 Okabase（西九州大学）と関西学院大学生に講義（吉椿、立部）<br>1/12 龍谷大学国際特別講義「国際 NGO 論」で講義（吉椿）<br>1/17 大阪大谷大学「国際社会学 B 国際協力論 B」で講義（吉椿）<br>1/22 愛媛グローバルネットワーク、JICA の NGO 提案型プログラム<br>「多文化共生型の減災社会づくり実践研修」で講演（吉椿）<br>2/4 葺合高校市民専門講師で講義（立部）<br>2/8 葺合高校国際科グローバルスタディーズⅡC で講演（吉椿）<br>2/18 葺合高校市民専門講師で講義（吉椿）<br>3/24 コープこうべ 100 周年記念事業「心の傷を癒すこと上映会＆斉藤幸平講演会」<br>でコーディネーター（吉椿） |

| | |
|---|---|
| 事業名 | 6-(3) 機関誌及びインターネットによる情報発信 |
| 実施日時 | 機関誌は年 3 回発行、<br>メーリングリスト、インターネットは随時発信 |
| 実施場所 | CODE 事務所 |
| 受益対象者の範囲及び予定人数 | 機関誌は全国各地へ約 1000 通発送<br>インターネットは不特定多数 |
| 実施内容 | 現在、CODE の情報発信は、HP、メーリングリストに加え、SNS を活用した広報として Twitter や Facebook、インスタグラムを活用している。<br>2020 年度に真如苑の基盤強化の助成金を活用して、ホームページの刷新を船曳桃子 |

| | |
|---|---|
| | さんのご協力で行った。また、リーフレットの刷新も岸本理事を中心に新しいデザインを現在、検討中。<br>＊2021年8月にアフガニスタンの政変が起きたことにより、現地の人たちに迷惑がかからないようにCODEのHPのアフガニスタンのページを閉鎖している。また、FBでも過去のアフガニスタンの記事の個人名、地域、写真をイニシャル変更、削除することで対応した。<br><br>＊CODEレターの発送状況<br>2016年度 9月発行のVol.56より機関誌「CODEレター」をカラー化し、年間3回発行している。<br>2021年度は、3回、各1500部発行し、以下の通り会員、寄付者に発送した。<br>Vol.67（2021/3/1発行）は、 934部を発送<br>Vol.68（2021/10/5発行）は、 950部を発送<br>Vol.69（2022/4/24発行）は、 960部を発送<br><br>＊SNSの状況<br>学生ボランティアの原田梨央さん（2021年10月から長崎大学大学院）がTwitterやインスタグラムを活用してCODEの活動を若者向けに丁寧に発信してくれたことで各SNSのフォロワーが増加している。<br>・FaceBook<br>CODEのFaceBookに「いいね」をした人は、1581人（2022年6月初時点）<br>（2015年度末は648人、2016年度末は1125人、2017年度末1295人、2018年度末1407人、2019年度末1484人、2020年度末1540人）<br>・FaceBookのフォロワー：1680人（2020年度末は1616人）<br>・Twitterのフォロワー：512人（2020年度末は512人）<br>・インスタグラムのフォロワー：747人（2020年度末は628人）<br><br>その他、ソーシャルアクションリングなどの媒体を通じてもCODEの活動を広報してきた。 |

【7. その他本会の目的のために必要な事業】

| 事業名 | 7-(1) CODE・AID設立のための準備 |
|---|---|
| 実施日時 | 随時 |
| 実施場所 | CODE事務所 |
| 受益対象者の範囲及び予定人数 | 不特定多数 |
| 実施内容 | 2019年度より本格的に認定NPO法人の取得に向けて動き出し、会計に関しても今中壽一税理士（ひまわり会計事務所）にご協力いただき、これまでの会計処理を修正し、認定取得に向けて、市民活動センター神戸（認定NPO法人相談窓口事業を神戸市から受託し |

| | |
|---|---|
| | ている団体）や神戸市などと協議を行ってきた。また、榛木理事とも認定 NPO 法人を取得いた2団体（テラルネッサンス、アクセス）を訪問し、ヒアリングを行った。］<br>2020 年度は、新型コロナウイルス感染症の影響で神戸市も認定 NPO 法人に関する業務を一時休止していた。2020年度は、通常業務の傍ら、認定NPO法人取得に向けた寄付者名簿や会員名簿の整理を地道に行ってきた。また、コロナ禍によって寄付が減少したことから持続化給付金（200万円）と家賃給付金（63万円）を受給することができた。<br>2021 年度末、認定 NPO 法人の申請に関して神戸市に問い合わせところ、2020 年度の NPO 法人の報告書の提出が遅れたとみなされていたことが分かった。この件に関して理事会で議論をし、「長期事業計画を立てて将来的には認定を目指すべき」という指摘を踏まえつつも、事務局の負担などを鑑みて新たな申請に関しては少し様子を見ることとなった。<br>2021年度は、震災25年企画の後継として、芹田名誉理事に基調講演「すべての人に宿るボランティアの心根」でお話しいただき、27 年前の阪神・淡路大震災の精神を若者たちに伝えていただいた。また、室崎代表理事の喜寿をお祝いして、ご自身の半生を語っていただく場を持った。多くの方にオンラインでご参加いただき、そのお祝い金を CODE 未来基金へ寄付していただいた。<br><br>◎震災26年企画「すべての人に宿るボランティアの心根」<br>講　師：芹田健太郎（CODE 名誉理事）<br>コーディネーター：宮本匠（CODE 副代表理事）<br>日　時：2021年7月24日 13：30～15：30<br>場　所：CODE 事務所、オンライン参加<br>参加者：34名<br><br>◎室崎代表理事喜寿記念講演会「災害と共に～いま、半生を語る」<br>講師：室崎益輝（CODE 代表理事）<br>日　時：2021年8月22日（日）17:00-19:00<br>場　所：兵庫県立大学神戸防災キャンパス（参加者はオンライン）<br>申込み：187名（うち、理事・事務局11名）<br>参加者：120名以上（最後の写真撮影時）<br>＊室崎代表理事のご厚意でお祝い金を次世代の若者を応援するために<br>CODE 未来基金に寄付していただいた。寄付額：合計357,780円（54名より）<br><br>＊2021年度の主な動き：<br>4/12　事務局ミーティング（村井理事、細川、吉椿、立部）<br>4/12　事務局ミーティング（村井理事、細川、吉椿、立部）<br>4/16　CODE 理事会<br>4/22　人材育成・広報ワーキングミーティングを開催<br>（宮本副代表、岸本理事、堀之内理事、吉椿、立部）<br>6/19　CODE 理事会・2022年度総会 |

| | |
|---|---|
| | 6/30　神戸市にNPO法人報告書を提出（吉椿）<br>7/24　震災26年企画「すべての人に宿るボランティアの心根」（芹田名誉理事）<br>を開催（室崎代表、宮本副代表、村井理事、山口理事、岸本理事、<br>吉椿、立部、原田）<br>8/22　室崎代表喜寿記念講演を開催<br>（宮本副代表、村井理事、松田理事、山口理事、中川監事、飛田監事、<br>細川、吉椿、立部）<br>9/24　CODE理事会<br>12/21 CODE理事会<br>2022/2/25　CODE理事会 |